

議長記者会見録

日 時 令和5年3月17日（金） 13時から13時19分

場 所 議会棟 3階 議会運営委員会室

○議会事務局

それではお時間となりましたのでこれより議長記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行でございますけれども、まず中島議長が挨拶をいたします。

次いで、山口副議長がご挨拶をいたします。

そのあと、各社による質問ということで、30分程度を予定しております。

それでは中島議長からご挨拶をお願いします。

○中島議長

それでは、本日は、報道各社の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、2月定例会の運営・広報に関しても、様々なご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

はじめに、トルコ・シリアでは多くの被害及び避難者が発生し、死者は5万人を超える状況にあることから、本県議会として復興支援等に役立てていただくため「50万円」を日本赤十字社宛に送金しておりますことをご報告させていただきます。

さて、今議会は、現任期最後の定例会でございましたが、ここに滞りなく閉会の運びとなりました。

顧みますと、「令和」のはじまりとともに、県民の皆様から負託を受け、県政に参画をして以来、はや4年の歳月が過ぎようとしており、まことに感慨深いものがございます。

この任期中では、令和2年3月に県内（壱岐市）で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症への対応がございました。

今日までに、33万人を超える県民の方々が感染され、県民生活や経済活動に、長い間、大きな影響を与えました。ご承知のとおり、5月からは、感染症法上の位置付けが2類相当から5類に引き下げられることから、感染症発生前の日常にまた一歩近づくことを期待しております。

また、令和元年11月のローマ教皇フランシスコ台下の本県ご訪問であります。

教皇のご訪問は、38年ぶりであり、原爆落下中心地において、「核兵器のない世界が可能であり、必要である」とのメッセージを発信され、世界の平和を願う全ての人々に大きな勇気と励みを与えていただきました。

しかしながら、昨年2月、核兵器を保有するロシアは、ウクライナへの侵攻を開始し、今もなお継続していることから、全世界が協力して、侵攻の終結に力を尽くす必要があると考えております。

さらに、昨年9月23日に、長年の悲願であった、西九州新幹線が開業し、本県経済の更なる回復・拡大に大きな期待を抱いているところであり、開業効果の県内全域への波及に向けた取り組みなどを後押しし、理事者や関係団体と連携した、更なる取り組みが必要であります。

このほか、私も郡部選出の議員として、離島や半島の将来に不安を感じているところで

あり、令和4年度末で期限を迎える、離島振興法が改正・延長されたのは、本県にとって、力強い後押しになるものと考えております。

議会におきましては、これまで、県議会のデジタル化に取り組み、本会議における電子表決の導入、タブレット端末等を活用した電子化した議会資料の配付・閲覧を段階的に進め、今定例会では電子化した議会資料のみとしたところであります。

このほか、令和3年3月に「長崎県議会と長崎県立大学との包括連携に関する協定」を締結し、学生の議会事務局でのインターンシップを通じた人材育成や議員による県立大学での講演、「議員と学生との交流」について、積極的に実施してまいりました、

また、議員提案の政策条例として、「長崎県ケアラー支援条例」を昨年制定し、来る4月に施行される運びであり、九州・長崎IR区域整備計画についても、昨年の4月臨時会で計画案を議決するなど、活発な議会活動を行い、二代表制の一翼を担う議会としての役割を果たしてまいりました。

一方、新幹線西九州ルートについて、新幹線は全国と繋がってはじめて、新幹線としての効果が発揮できるものでありますことから、一刻も早い、全線フル規格での整備実現を期待しているところであります。

国土交通省と佐賀県との「幅広い協議」の推移を見守るとともに、継続的に佐賀県議会との間で情報交換を行いながら、西九州地域全体の視点から議論を積み重ね、理事者とも連携して対応を図っていくことが必要であると考えております。

石木ダム問題についても、昨年の9月定例会では、「石木ダム建設推進に関する決議」を賛成多数で可決したところであります。

引き続き、反対住民の方々に事業にご協力いただけるよう、県と共に粘り強く働きかけ続ける必要性を感じているところです。

最後に、今定例会においても活発な議論が交わされました人口減少問題等につきましても、引き続き、議会、理事者一体となって取り組んでいく必要があるかと考えており、今後もこの流れを断ち切ることなく、着実に前進されることを祈念いたしております。

さて、統一地方選挙も目前に迫ってまいりましたが、今期限りでご勇退になられる議員の皆様に対し、在任中、各方面にわたって数多くの業績を残されましたことに対しまして、深甚なる敬意を表する次第でございます。

また、知事はじめ、理事者各位並びに報道機関の皆様には、任期中、私どもに対し、ご理解とご協力を賜りましたことを、この機会をおかりいたしまして、厚くお礼を申し上げます。

最後に、私事で恐縮でございますが、今期限りで県議会議員を引退することといたしました。

昨年7月の就任以来、今日まで、議長の重責を務めさせていただきましたことは、ひとえに皆様方の多大なるご支援、ご協力のたまものであり、衷心より、感謝申し上げます。

以上、少し長くなりましたが、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。

○議会事務局

続きまして山口副議長からごあいさつをお願いします。

○山口副議長

令和3年7月、副議長に就任以来、議長を補佐し、議会の円滑な運営のため、微力ではございましたが、誠心誠意努めてまいりました。

この間、特に、長引く新型コロナウイルス感染症は、県民生活や事業活動に大きな影響を与えてきました。その対策に理事者と議会が一体となって取り組み、その中で、副議長としての役割を果たすことができたのではないかと考えております。

また、さきほど、議長からもありましたように、長年の悲願でありました西九州新幹線が開業し、様々なプロジェクトの進展により、長崎のまちの佇まいが大きく変わろうとしております。

しかしながら、本県には、人口流出などの重要な課題も山積しておりますので、引き続き、県政の推進に努力してまいりたいと考えております。

最後になりますが、令和3年7月の就任以来、今日まで、副議長の重責を務めさせていただきましたことは、ひとえに皆様方の多大なるご支援、ご協力のたまものであり、衷心より、感謝申し上げます。

以上、はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。

○議会事務局

それでは質問をお願いしたいと思っておりますけれども、発言される際は、会社名と名前をお願いいたします。

○長崎新聞社

議長にお尋ねをしたいのですが、今期で引退をされるということで、18年9ヶ月を振り返られて、最後の議会終わられて率直な気持ちを聞かせていただきたい。

○中島議長

18年と9ヶ月、本当に県議会にお世話になり、皆さんにお世話になりました。

私が、県議会に入ってから、自民党会派も二つに分裂するとかという中で、本当にいろいろな勉強をさせていただきましたし、そして議会という議員の集団の中で、いろいろな人間関係を勉強させていただきました。

ぜひ改選後は、しっかりと県政のために、やっていただきたいという思いが一番強いです。

○長崎新聞社

議員としての最後、議長で締めくくるということについてはどのようにお考えでしょうか。

○中島議長

いろいろな議員の集団の中で、おそらく議長はできないだろうと思っておりましたが、

最後は、議員の皆さん方が1回やれということで、本当に感謝をいたしております。

○長崎新聞社

最後、最終本会議が終わった時、どんな気持ちが入り込めてきたかお聞かせください。

○中島議長

昨日、会派の最後の懇親会がありました。その中で、今限りで引退をされる方とか、県議選をやるという方々がおられます。

ぜひ、もう一度、この議会に戻ってきてくださいというお願いをしました。

そして、辞めていく自分としては、本当に寂しいが、何らかの形で、長崎県或いは県民の方々のお役に立てればという思いであります。

私は、長いものに巻かれろという言葉が一番嫌いなのです。

私は、本当に信念を通して、18年間、県議会の中でやってきたという自負を持っています。

ただ、それぞれ信念があっても県議会として動くときには、多数決の原理ですから、自分の考えと違っていても、決め事は決め事でこれはやっていかなければならないですが、自分としては、信念だけは通したいというのが今までの議員生活の中であります。

○長崎新聞社

少しゆっくりする時間もできるのかと思うが、釣りとか家庭菜園とかそういう趣味があれば教えてください。

○中島議長

県議になって、18年9ヶ月、その前は町の議員をしていましたので、息子に事業をやって事業の手伝いしていない。

元気なうちに息子の手伝いを少しでもやろうかという思いで、今回、引退を決めました。

あとは、好きなゴルフがなかなかできなかったのが、ゴルフをしたい。

そして、家内に一番苦勞をかけた、私たちの年代ですと、夫婦で旅行なんかされますが、全くそういうことしてないので家内孝行、そして息子の事業を元気なうちに手伝っていききたい。

○長崎新聞社

ありがとうございました。

お疲れ様でした。

続けて、副議長に、違う会派の議長を支えるというのは、言いにくいかもしれないですけど、やりにくかったこととか、心がけたこととかありますか。

○山口副議長

私、副議長として2年間務めさせていただき、先代が、坂本議長さん、今、中島議長さんで、ある意味で議長、副議長は長崎県の一つの団としての位置付けがあると思います。

それぞれ会派の思い、思惑もありますが、長崎県として、長崎県議会としてどうあるべきか、どう進むべきかということについては、議長を支えて、長崎県が少しでも元気になるようにということを肝に銘じて、今日まで務めさせていただいた。

むしろ指導をいただいたという方が強いと思っています。

○長崎新聞社

わかりました。

ありがとうございます。

○議会事務局

他にありませんでしょうか。

その他ないようでしたらこれで終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

※ 発言内容については、わかりやすいように一部変更している部分があります